

# アイヌタイムズ 第32号 日本語版

---

---

---

## ★ウペウ

ウペウはセリ科の植物の根です。その根は、強い臭気を有し、風邪や腹痛があると、薬にされました。

風邪になると、煎じて飲んだりしました。お茶そして水の代わりに飲んだりしました。粥の中に入れて食べたりしました。

強い臭気を発するため、病魔がいやがると思われました。小屋に吊るしたりしました。犬の首からぶら下げたりしました。

織田ステノさんは、次のように言っています：「ウペウはイワニンジンとシャモたちは言っていた。イワニンジンがあったら、おかゆに入れた。その匂い(あつたが)、食べたらおいしいものらしい。フチたちは、小さい時は食べさせられても、何を食べてもうまいなあと思って食べたもんだ。．．．ウペウだってkamuy-kar-kusuriだといって、フチたちは少し風邪気味なら、水を鍋に入れてお湯を沸かして、ウペウとともに煎じて飲んだ。エカシたちにも飲ませたのを小さい時に見た事がある。」と言いました。

(アイヌ民俗文化財調査報告書(アイヌ民俗調査IV)、北海道教育委員会、1984、p 77)

田畑アキさんは、次のように言っています：「ウペウを掘って、きれいに洗って干します。赤ん坊が夜泣きしたら、そのウペウをかじりながら、家の隅に何度も息を吹き掛けます。その後その赤ちゃんがどうなるかなと思って見ると、泣きません(泣かなくなりませす)。どのように言葉を言いながら息を吹きかけたかわかりません。」

(アイヌ生活誌、(財)アイヌ無形文化伝承保存会、1984、p 31)

松永たけさんは、次のように言っています：「カシキクするときに使う。アシンニフツチ、アバカムイのところでカシキクして、それからウペウ(=カラフトニンジン)でもって顔洗わせる。ウペウは、煮出さなくても水に入れただけでいい。朝鮮人参みたい匂いがする。」と言いました。

(アイヌと植物(薬用編)、(財)アイヌ民族博物館、2004、p4)

知里真志保は、ウペウは、「イブキボウフウ」であると言いました。学名は、*Seseli libanotis* var. *japonica* です。多くの研究者は、ウペウは「イブキボウフウ」であると言いました。

しかし、胆振・日高地方では、「ウペウ」は「イワニンジン」であると言われる所もあります。「イワニンジン」は、*Angelica hakonensis* Maxim. (セリ科)という学名があります。「hakonensis」のハコネは本州の箱根なので、箱根付近の山地(の岩石地?)に生えるものであり、北海道にはないものです。したがって、本当は「イワニンジン」と名付けるのはウソであり、本当の和名ではありません。

アイヌ民族博物館研究報告第8号の中で、北海道立衛生研究所の姉帯正樹氏は、以下のように言っています：「白老町の野本家、松永家、岡田家が「イワニンジン」とそれぞれ考えていたものを調べたところ、その形により、カラフトニンジン *Conioselinum kamtschaticum* の根であることがわかりました。」と言いました。

平取町貫気別の黒川家で植栽しているウペウも「イワニンジン」と言われてます。姉帯氏は、以下のように言っています：「これはその形により、センキュウ *Cnidium officinale* (セリ科)であることがわかりました。センキュウは薬になるもの(薬草)で、寛永の頃に大陸から長崎に運ばれたと言われています。明治から大正まで、和人が本州か

ら持ち込み、「イワニンジン」という名を付けたのだろうと考えられます。」と言いました。

浦河町字姉茶の遠山サキさんは「キムンウペウはイワニンジンと言われるものです」と言いました。しかし姉帯氏は、以下のように言っています：「これは、その形により、ホソバトウキ *Angelica stenoloba* (セリ科)であることがわかりました。この根は生薬では、当帰(トウキ)と呼ばれるものです。当帰(トウキ)は、精油を含み、それで人の体を温めるために薬にされます。」と言いました。

遠山サキさんは、次のように言っています：「キムンウペウ(=ホソバトウキ)は、体がだるかったり風邪をひいたりお腹の具合が悪かったりすると煎じて飲んだ。他の草も混ぜて煎じることもあった。」と言いました。

(アイヌと植物(薬用編)、(財)アイヌ民族博物館、2004、p5)

センキュウは当帰(トウキ)に似た薬効があります。黒川セツさんは、「イワニンジンは、風邪ひいた時などに煎じて飲む。イワニンジンは、ウペウ(=センキュウ)のこと。」と言いました。

(アイヌと植物(薬用編)、(財)アイヌ民族博物館、2004、p5)

このように、アイヌ語で「ウペウ」という名のものは、日本においてはたくさん学名があって、いろんな村でいろんな「ウペウ」があるのです。

[横山 裕之] 沙流・千歳

(写真は全て姉帯正樹氏からいただいた物です。)